

元気でしたいから 診察室訪問



が障害される橈骨神経麻痺が最も疑われます。

上肢が痺れ、顔を上に向け

たら痺れが強くなる場合は、

頸椎の疾患が疑われます。ま

た、両手足の痺れは、糖尿病・

ビタミン欠乏・アルコールの

過剰摂取・過換気症候群など

でも起こります。肺癌が原因

の上肢の痺れもあり、痺れは

さまざまな原因で起こりま

す。放置しないでかかりつけ

医に相談してください。

最後に、緊急性のある痺れ

は、脳梗塞や脳出血などの脳

血管障害によるものです。急

に体の片側に痺れが出て「麻

痺」や「ろれつが回らない」な

どの症状がみられたら、迷わ

ず救急車を呼んでください。



金澤整形外科
金澤慶治

このコーナーは松山市医師会の協力によるものです。

手の痺れで来院される患者さんで、治療が必要な痺れの場合、①痺れの部位や持続時間②痺れの起こり方③痺れ以外の症状、などを問診し、診察を行い、必要に応じレントゲン検査、MRI検査、神経伝導検査などを行います。疾患によっては、血液検査、髄液検査などが必要になることもあります。

痺れの部位から、母指（親指）・示指（人さし指）・中指と環指（薬指）の母指側半分の掌側が痺れている場合は、手の所で正中神経が障害される手根管症候群が最も疑

われます。手首を直角に曲げ、胸の前で両手の甲を合わせた形で1分間保ったときに、いつもの痺れが強くなれば、手根管症候群の可能性が高まります。小指と環指の小指側半分が痺れている場合は、肘の所で尺骨神経が障害される肘部管症候群が最も疑われます。肘の内側を軽くたたいたときに、小指の放散する痛みや痺れを感じれば、肘部管症候群の可能性が高

まります。母指・示指・中指の手の甲（手背）側が痺れて手首を背屈しにくくなった場合は、二の腕の所で橈骨神経